

●北海道開発における治水事業

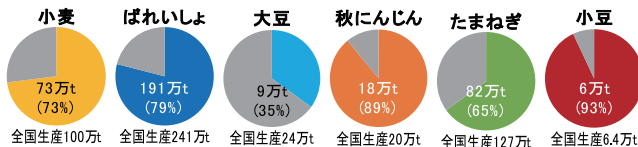
北海道の開発は、北海道の豊富な資源や広大な国土を利用し、我が国全体の安定と発展に寄与することを目的として行われています。8期目となる北海道総合開発計画（平成28年3月閣議決定）は、「食」や「観光」など北海道の強みを活かし、本格的な人口減少時代にあっても人々が豊かな暮らしを送ることのできる地域社会の形成を図るとともに、我が国全体への貢献を目指します。

●●●治水事業の実施と北海道の発展●●●

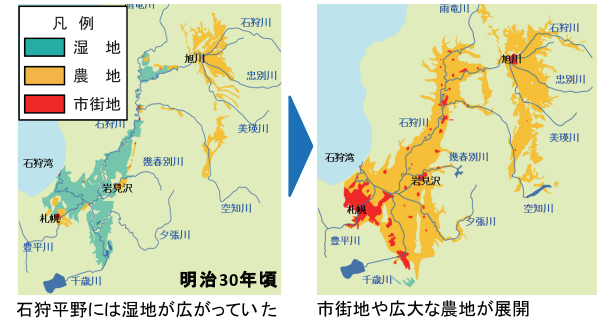
明治2年より進められてきた北海道の開拓は、原始の姿そのままに流れる石狩川の氾濫との戦いでもありました。低平湿地を居住地・農耕地とするために、捷水路工事などの治水事業が農業の土地改良事業と共に進められてきました。明治43年に石狩川で本格的に始められた治水対策は、これまでに市街地や農耕地の形成・拡大など北海道の開拓・発展に大きく貢献してきました。

■北海道農作物の全国シェア

出展：農林水産省「作物統計」（平成27年）



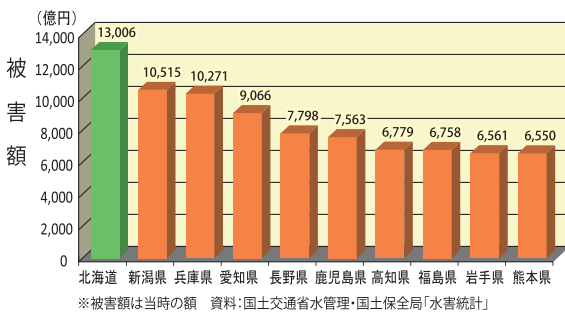
■治水事業によるストック効果の事例



北海道開発局は、北海道内の13の一級水系を管理しています。道内人口の約6割が一級水系の流域内に居住しており、その生活を洪水から守っています。また、多様な農産物を全国に供給する北海道の農耕地は、その大部分が一級水系流域内に集中しています。治水事業は、生活の安全のみならず食料生産にとっても重要な役割を担っているのです。

●●●水災害による被害●●●

●近年（1981～2017年）の水害被害額合計



●北海道における近年の主な水害被害

年月	気象	浸水世帯数	被害面積	被害額
昭和56年 8月上旬洪水	前線と台風12号による	床上床下 約 27,900戸	約 132,000ha	約 1,590億円 (石狩川、十勝川など)
昭和56年 8月下旬洪水	前線と台風15号による	床上床下 約 17,400戸	約 42,900ha	約 400億円 (石狩川、尻別川など)
昭和63年 8月洪水	前線による	床上床下 約 6,200戸	約 6,700ha	約 380億円 (石狩川、留萌川など)
平成 4年 8月洪水	前線と台風10号による	床上床下 約 500戸	約 5,200ha	約 230億円 (鶴川など)
平成 4年 9月洪水	前線と台風17号による	床上床下 約 3,200戸	約 12,800ha	約 260億円 (網走川など)
平成10年 9月洪水	台風5号による	床上床下 約 900戸	約 500ha	約 230億円 (湧別川、渚滑川など)
平成13年 9月洪水	前線と台風15号による	床上床下 約 200戸	約 5,600ha	約 300億円 (石狩川、十勝川、網走川など)
平成15年 8月洪水	前線と台風10号による	床上床下 約 220戸	約 2,700ha	約 560億円 (鶴川、沙流川、厚別川、十勝川など)
平成18年 8月洪水	前線による	床上床下 約 220戸	約 2,300ha	約 100億円 (石狩川、鶴川、沙流川、常呂川など)
平成18年 10月洪水	低気圧による	床上床下 約 190戸	約 950ha	約 80億円 (網走川、常呂川、湧別川、渚滑川など)
平成23年 9月洪水	前線と台風12号、13号による	床上床下 約 90戸	約 1,100ha	約 70億円 (石狩川、後志利別川、十勝川など)
平成28年 8月洪水	台風7号、9号、11号、10号による	床上床下 約 900戸	約 2,300ha	約 1,470億円 (石狩川、十勝川、常呂川など)

資料：国土交通省水管理・国土保全局「水害統計」（被害額は当時の額）

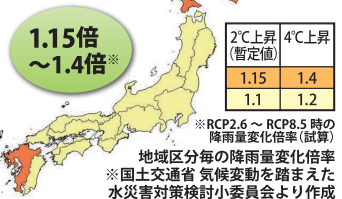
■近年の気象の変化

近年、北海道では短時間強雨が増加し、度重なる洪水被害に見舞われ続けています。加えて、北海道は、国内でも気候変動の影響を受けやすい地域であり、地域区分毎の降雨量が1.15倍～1.4倍に増大する※と予想されるなど、災害リスクの増加が懸念されています。

北海道の30mm/h以上の降雨発生回数



北海道における降雨量



「防災・減災、国土強靱化のための3カ年緊急対策」に基づくハード・ソフト対策の推進

平成30年7月豪雨、北海道胆振東部地震等最近の災害に鑑み実施された総点検結果を踏まえ、甚大な人命被害等が生じるおそれのある河川の堤防の強化対策、樹木伐採や掘削等の対策や、土砂・洪水氾濫により被災する危険性の高い箇所を保全する砂防堰堤の整備等の対策を実施するとともに、迅速な避難につながる河川情報の提供などのソフト対策を推進します。

